

欧州プラスチック産業 NEWS



- powered by K -

2015 年 2 号(爽秋)

ご存知のように、ここしばらくの欧州における話題の中心は『ギリシア危機』でしたが、その陰に隠れ、本来であれば注目すべき動向について、十分な発信がなされなかったようです。例えば、ギリシアの次に、あるいは同程度の危機的状況にあると言われるスペインとアイルランドは、それぞれ、2.8%、そしておよそ 5%と、著しい経済成長率が見込まれています。それに対し、今まで堅調な成長を見せてきたフランスとオーストリアが、1%前後の成長しか実現できない恐れもあるようです。やはり、ヨーロッパと言えど、それぞれの国にそれぞれの事情があり、まだまだ完全な『共同体』になっていません。

さて、お待たせしましたが、欧州プラスチック産業 NEWS・2015 年 2 号をお届けします。今回は、

- * [トレンド](#) プラスチック素材の新たな応用、市場調査
- * [業界・企業ニュース](#) Bayer、BASF、Lanxess、Clariant 各社の動向
- * [メッセ情報](#) T-PLAS、Fakuma、Plastics Recycling Show Europe

を取り上げました。ぜひ、最後までご覧ください。

第 1 部: [トレンド](#)

[プラスチック素材の応用分野がさらに拡大](#)

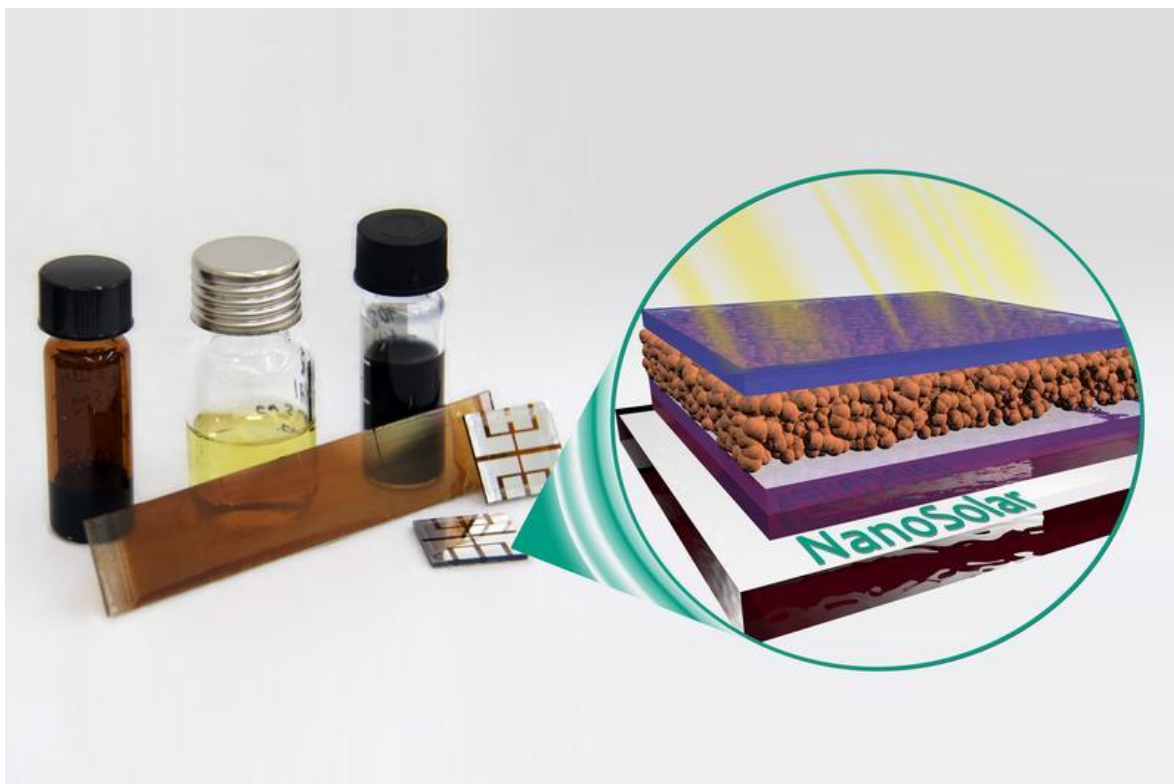
プラスチック素材の新たな応用がメディアをにぎわせています。それも、ナノから包装まで、幅広く取り上げられています。それでは、早速事例を見ていきましょう。

1. ナノ結晶薄膜太陽電池

最もホットな先端技術ニュースのひとつに、南ドイツにあるエリート大学『カールスルーエ工科大学 (KIT)』が行う、ペロブスカイト(灰チタン石)太陽電池をさらに発展させる高効率化と鉛フリー化の実現を狙う研究があります。それが可能となれば、環境にやさしく効率のよい太陽電池が廉価に生産でき、ゆくゆくは、例えば建物のファサードに太陽電池機能を加え、建物全体のエネルギー収支を改善させることができるようになります。『ナノソーラー』と名づけられたこのプロジェクトのもと、この先 3 年をかけて研究が進められます。

画像:2015 年 8 月 20 日付 K-NEWS / Science

出典:2015 年 8 月 20 日付 K-NEWS / Science、2015 年 7 月 2 日付 KIT プレスリリース



2. 食品・飲料業界で、プラスチック系容器がガラスを凌駕

包装の最も重要な役割のひとつは、その中身を守ることです。しかし昨今では、製品を運ぶ費用も重要な要因となっているため、以前多用されたガラスに代わり、プラスチック系の容器がマーケットシェアを獲得しています。その中で、メディアに取り上げられているのは、熱間充填対応容器です。日本では、数年前から特に飲料容器・PET ボトルの利用が当たり前ですが、欧州では様子が異なります。というのも、今回特に注目を集めているのが、ジャムやソースなどを販売するイギリスの『Fudge Kitchen』社の、フタが金属のプラスチック容器だからです。同社のメディア担当 K. ハリス氏によりますと、従来のガラスよりはるかに軽いプラスチックの新容器は、物流コストの削減にも貢献するうえ、新しい容器自体の評判がとても良い、とのこと。やはりヨーロッパ人は、『金属のフタ』に高級感を感じているようです。この容器を提供する企業には、米 Plastipack の欧州法人 Plastipack Packaging 社や、オーストラリアの Amcor 社があります。

出典:2015年7・8月号 Plastic News Europe 誌

3. 建設業ではプラスチック製チューブが躍進

それぞれの分野における従来の素材に代わり、プラスチックが利用されるメリットについて、もうひとつ事例が挙げられます。市場調査を行うフリードニア研究所は、世界中のプラスチック製チューブの需要が2019年まで毎年6.7%増加する、という結果を発表しました。従来、インフラ用にはコンクリート、銅、スチールがよく利用されてきましたが、プラスチック製は比較的成本が安く、取り付けしやすい、との評価が高く、そのシェアを徐々に伸ばしています。同調査によれば、特に中国、そして米国でプラスチック製チューブの大きな需要があり、そのほかでは、アフリカ、南米など、発展していく地域も需要増が見込まれています。



メッセ・デュッセルドルフは、このような動きをとらえ、隔年開催している『Tube』展において、『プラスチック・チューブ・フォーラム(Plastic Tube Forum)』をアレンジしています。Tube 展 [日本語ウェブサイト](#)において、本イベントに関する情報を発信して参りますので、ぜひアクセスしてみてください。

出典:2015年8月11日付 K-ZEITUNG ONLINE

市場調査『Market Study - Plastics Europe』発表

ドイツの市場調査・コンサルティング会社 Ceresana 社は、欧州のプラスチック市場を分析し、その結果を8月に発表しました。それによれば、2014年の欧州プラスチック市場の規模は5,300万トンで、2022年までに平均で2.9%増を実現する、とのこと。欧州で最もプラスチックの生産量が多い国はドイツで、以下ベルギー、フランス、ロシア、オランダ、スペインと続きます。

調査の内容は、欧州各国のプラスチック市場規模と発展の予測、利用分野における動向、それぞれのプラスチック類と大手企業の分析です。英語版の調査を直接 [同社のサイト](#)からご購入いただけます。

出典:2015年8月11日付 Plasticker-News

第2部：業界・企業ニュース

Bayer 新子会社

ドイツのレバークーゼン市に本社がある Bayer 社は、素材科学事業グループ『Bayer MaterialScience』を分離・独立させ、その新会社の名称を『Covestro』とする、と発表しました。2016年半ばをメドに上場予定で、新会社の価値は約100億ユーロ(1.35兆億円相当)であろうと予想されています。本年10月に南独で開催される Fakuma には、すでに『Covestro』として出展参加をしています。

出典:2015年7月31日付 [www.k-aktuell.de](#)、2015年6月2日付 *Handelsblatt 紙*
2015年6月2日付 *Rheinische Post 紙*、2015年4月22日付 *Welt 紙*

BASF は、東南アジアにさらに注力

BASF 社は、東南アジアのビジネスを拡大するため、マレーシアのパートナーである Petronas Chemical グループと更に提携を強化し、年間5万トンの生産能力を持つ PIB 工場を設置すると発表しました。工場の完成は2017年第4四半期を予定しています。投資額に関する詳細情報の公表は、なされませんでした。

出典:2015年7月22日付 *Welt 紙*

Lanxess はリストラを継続、しかし配当金は去年並みを維持

NRW 州のケルン市に本社を持つ、ドイツの化学大手 Lanxess 社は、業績の改善を目指し、リストラを継続しながらも、株主に対してはその信頼を保つため、去年並みの配当金を支払うことを発表しました。リストラは、もともと管理部門の従業員数削減が中心でしたが、最近では合成ゴムの製造部門にまで及び、NRW 州 Marl 市の生産ラインを閉鎖することを公表しています。対象となる120人の従業員は、その他の工場に移る予定です。

出典:2015年3月20日付・同2月18日付 *FAZ 紙*、2015年3月20日付 *Rheinische Post 紙*

Clariant は企業組織を再編、プラスチックとコーティング事業部を子会社化

スイスの化学品メーカー Clariant 社は、2016 年 1 月 1 日を目指し、プラスチックとコーティングの事業を子会社化する予定を発表しました。これにより、利益性がさらに増すものと見られています。

出典:2015 年 8 月 5 日付 www.plastiker.de

第 3 部: メッセ情報

T-PLAS が成功裏に終了



2015 年 8 月 26 日～29 日、タイの首都・バンコクで開催された『T-PLAS – タイ国際プラスチック・ゴム産業展』は、直前にあった爆弾テロにも関わらず、大成功を収め、終了しました。出展企業の約 8 割は、在タイ外資あるいはタイ国外から申し込んだ会社で、日本企業は春日電気、クボタ、東西貿易、東北電子産業、プラスチック・エージが、グローバルプレイヤーでは Arburg、Engel、Rieckermann、Windmoeller & Hoelscher、Stratasys などが出展しました。次回は、再び印刷・包装産業をカバーする PACK PRINT INTERNATIONAL とともに、2017 年 9 月 20 日～23 日に開催されます。ファイナル・レポートをはじめ各種情報は、[K 日本語版ウェブサイト](#)にてご確認いただけます。

出典:2015 年 8 月 18 日付 www.industrysourcing.com、[T-PLAS 専用サイト](#)

Fakuma に 35 か国から出展者が集結

世界 No.1 プラスチック・ゴム産業展『K』が行われない年に開催される、プラスチック機械・機材展 Fakuma に、35 か国から出展者が一堂に会します。南独・フリードリヒスハーフェンのメッセ会場を全て使用して行われる本年は、特別テーマとしてバイオプラと 3D 印刷が取り上げられます。なお、会期は本年 10 月 13 日～17 日、会場時間は、火曜日～金曜日が 9 時～17 時、土曜日は 9 時～15 時です。

比較として、前回の『K』展のデータを挙げてみますと、出展総数は世界 59 か国から 3,200 社を記録しています。日本企業は、欧州現地法人からの参加に加え、28 社が直接日本から出展お申し込みになりました。来場数は、120 か国 218,000 人に達しています。詳細は、[ファイナル・レポート](#)をご参照ください。

出典:2015 年 7 月 31 日付 www.prw.com、www.fakuma-messe.de

プラスチック・リサイクル展が 11 月にデビュー

プラスチック・リサイクルを主なテーマとする会議・展示会が、2015 年 11 月 25 日～26 日にブリュッセルで開催されます。本イベントの名称は『[Plastics Recycling Show Europe](#)』で、主催は Crain Communications (出版社)、後援は欧州プラスチック・リサイクル協会 (PRE) です。

欧州プラスチック産業 NEWS・2015 年 2 号は、いかがだったでしょうか？ご意見やご要望をお聞かせいただければ幸いです。

【発行】(株)メッセ・デュッセルドルフ・ジャパン

【編集担当】メルケ・橋木 【メッセ担当】橋木

<http://www.messe-dus.co.jp> ・ <http://k.messe-dus.co.jp>



本ニュースレターの掲載情報は発行日現在のものであり、予告なく変更される場合がございます。あらかじめご了承ください。
